

ガソリンの取扱いにご注意ください！



ガソリンは、取扱いを誤ると大変危険です。これからの季節、アウトドア等でガソリンを取り扱う際は、次の点を確認し、火災を予防しましょう。

チェック① ガソリンの危険性

- ★ガソリンの引火点は -40°C で、小さな火源でも爆発的に燃焼する物質です。
- ★ガソリンの蒸気は空気より重く、穴やくぼみなどに溜まりやすく、離れたところにある火源（ライター等の裸火、静電気、衝撃、電気スイッチの火花等）によって引火する危険性があります。

チェック② ガソリンを入れる容器

- ★ガソリンを入れる容器は、消防法令により、一定の強度を有する材質でなければならず、また、その材質により容量が制限されています。
- ★特に、灯油用ポリ容器（20リットル）にガソリンを入れることは、静電気により着火の危険があるため、絶対に行わないでください。

容器の容量制限	プラスチック製容器	10リットル以下（ガソリンの場合）
	金属製容器	60リットル以下
	金属製ドラム	250リットル以下



灯油用ポリ容器(20ℓ)



ガソリン用携行缶 ガソリン用金属缶

チェック③ ガソリンを取り扱うときの注意事項

購入する時



- ★ 消防法令の基準に適合した容器で購入してください。
- ★ セルフスタンドでは、利用客が自らガソリンを容器に入れることはできません。

保管する時



- ★ ガソリンを容器に入れて保管することは極力控えてください。（火災が発生すると爆発的に延焼拡大するためです）
- ★ 消防法令に適合した容器で保管する場合でも、合計40ℓ以上のガソリンを保管する場合は、消防法令の基準に適合する建物で行わなければならない、事前に消防署長に届出することが必要です。